

令和7年度沼田まつり実行委員会熱中症対策活動指針

沼田の夏の風物詩、沼田まつりの実施にあたり、参加者・観覧者の安全を確保するため、以下のとおり活動指針を策定し、熱中症対策を行うこととします。「安全は全てに優先する」という立場に立ち決定した指針ですので、関係各位のご理解・ご協力をお願いいたします。

(表1) 「令和7年度沼田まつり実行委員会熱中症対策行事实施基準」

実行委員会の判断する暑さ指数区分(WBGT)	沼田まつり実行委員会の活動指針	中止となる実行委員会行事	その他
33 以上	当該日の午後2時から午後5時までに予定されている実行委員会行事は中止します (各団体の自主行事、自主渡御、自主運行についても同様の対応を要請します。)	8月3日・4日・5日： 沼田まつり物産展 (午後5時以降は実施) 8月4日： 沼田祇園囃子競演会 子どもみこし共演	午後5時以降に行われる行事においても、暑さ指数が相当高いことが予想される時には、中止する場合があります。
33 未満	各団体において、参加者の安全が確保できないと判断した場合には、実行委員会行事(集結行事)への参加を取りやめることも可能とします(行事開始30分前までに祭典本部にその旨連絡することとします。) ただし、子ども、高齢者を行事に参加させる場合には、特に注意深く状態を監視し、熱中症対策を十分に講ずることとします。	—	
判断方法・公表方法等の概要			
各日における、気象庁、環境省が発表する暑さ指数の予測値や熱中症(特別)警戒アラートを活用するとともに、実行委員会で3か所(メイン会場(中央公民館跡地)、天狗プラザ、下之町平面駐車場)に設置する暑さ指数計測機器による計測値、当日の気象予報等を材料として、まつり当日各日の午前10時から行う実行委員会熱中症対策会議(正副委員長で協議し、結果は名誉会長、会長に報告し承認を得る)により、暑さ指数を総合的に判断します。 判断結果は、午前10時30分頃公表(沼田市ホームページ、SNS等により周知を予定)することとします。			

1 はじめに

(1) 熱中症について

世界的な気温変動により、ここ沼田市でも以前よりも夏の暑さが厳しいという声が多く聞かれています。沼田まつりは例年酷暑となる8月上旬に行われることもあり、実施にあたっては、参加者の熱中症対策が不可欠となっています。

熱中症とは、高温多湿な環境に長時間いることで、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。

屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されることや、場合によっては死亡することもあります。

個人の自発的な行動による「自助」、家族や周囲の人々による見守りや声かけなどの「共助」、地方自治体による包括的・体系的な「公助」といった取り組みが重要です。

自助では、次のような行動が有効とされています。

- ・こまめに水分や塩分を補給する
- ・日傘や帽子、涼しい服装を着用する
- ・熱中症リスクの高い場所や活動を避ける
- ・暑い日は無理な外出を控える
- ・天気予報を参考に、暑い日や時間を避けて外出や行事の日時を検討する
- ・屋外では日向を避け日陰を選んで歩く
- ・日陰を利用する
- ・こまめに休憩する
- ・無理をしない

熱中症について正しい知識を身につけ、体調の変化に気をつけるとともに、周囲にも気を配り、熱中症による健康被害を防ぐ必要があります。

共助では、家族や周囲の人々が個々人の予防行動を支援します。

公助では、地方自治体が「自助」「共助」の後押しを含め包括的・体系的に熱中症対策を実施します。

(2) 暑さ指数について

暑さ指数（WBGT（湿球黒球温度）：Wet Bulb Globe Temperature）は、熱中症を予防することを目的として提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度（℃）で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数（WBGT）は人体と外気との熱のやりとり（熱収支）に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい ①湿度、②日射・輻射（ふくしゃ）など周辺の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。

暑さ指数は労働環境や運動環境の指針として有効であると認められ、ISO 等で国際的に規格化されています。これを活用し、(公財) 日本スポーツ協会では「熱中症予防運動指針」、日本気象学会では「日常生活に関する指針」を策定し公表しています。

【参考】屋外における暑さ指数 (WBGT) 算出式

$$\text{WBGT} = 0.7 \times \text{湿球温度} + 0.2 \times \text{黒球温度} + 0.1 \times \text{乾球温度}$$

※WBGT、湿球温度、黒球温度、乾球温度の単位は、摂氏度(℃)

- 黒球温度 (GT:Globe Temperature) は、黒色に塗装された薄い銅板の球 (中は空洞、直径約 15cm) の中心に温度計を入れて観測します。黒球の表面はほとんど反射しない塗料が塗られています。この黒球温度は、直射日光にさらされた状態での球の中の平衡温度を観測しており、弱風時に日なたにおける体感温度と良い相関があります。
- 湿球温度 (NWB:Natural Wet Bulb temperature) は、水で湿らせたガーゼを温度計の球部に巻いて観測します。温度計の表面にある水分が蒸発した時の冷却熱と平衡した時の温度で、空気が乾いたときほど、気温 (乾球温度) との差が大きくなり、皮膚の汗が蒸発する時に感じる涼しさ度合いを表すものです。
- 乾球温度 (NDB:Natural Dry Bulb temperature) は、通常の温度計を用いて、そのまま気温を観測します。

(3) 熱中症警戒情報・熱中症特別警戒情報について

環境省は、令和6年4月24日から、「熱中症警戒アラート」、「熱中症特別警戒アラート」の運用を開始しました。これは、気温が特に著しく高くなることにより熱中症による重大な健康被害が生ずるおそれのある場合に、気候変動適応法第19条第1項の規定に基づき、環境大臣が発表するものです。

(表2) 公的機関等の発表する暑さ指数区分による指針

暑さ指数 (WBGT)	熱中症アラート (環境省)	日常生活に関する指針 (日本気象学会)	運動に関する指針 (日本スポーツ協会)
35 以上	熱中症特別警戒アラート	危険	運動は中止
33 以上 35 未満	熱中症警戒アラート		
31 以上 33 未満	—	厳重警戒	激しい運動は中止
28 以上 31 未満		警戒	積極的に休憩
25 以上 28 未満		注意	注意
21 以上 25 未満			

(表 3) 熱中症警戒アラート・熱中症特別警戒アラートの概要

	熱中症警戒情報	熱中症特別警戒情報
一般 名称	熱中症警戒アラート	熱中症特別警戒アラート
位置 づけ	気温が著しく高くなることにより熱中症による人の健康に係る被害が生ずる恐れがある場合 (熱中症の危険性に対する気づきを促す)	気温が特に著しく高くなることにより熱中症による人の健康に係る重大な被害が生ずるおそれがある場合 (全ての人が、自助による個人の予防行動の実践に加えて、共助や公助による予防行動の支援)
発表 基準	府県予報区等内のいずれかの暑さ指数情報提供地点における、日最高暑さ指数(WBGT)が3.3(予測値、小数点以下四捨五入)に達すると予測される場合	都道府県内において、全ての暑さ指数情報提供地点における翌日の日最高暑さ指数(WBGT)が3.5(予測値、小数点以下四捨五入)に達すると予想される場合
発表 時間	前日午後5時頃及び当日午前5時頃	前日午後2時頃 (前日午前10時頃の予測値で判断)

2 沼田まつり実行委員会の熱中症対策

(1) 熱中症予防行動

実行委員会では、これまでも参加団体にこまめな水分補給を初めとした自助を依頼するとともに、行事の短縮化、メイン会場（沼田市中心公民館跡地）等への日よけ用のテント・冷風機の設置、祭典本部への無料給水所の設置などを行ってきており、今年度も充実した対応を検討しています。

しかし、近年の猛暑下においては、こうした取組をしても参加者、観覧者の熱中症の危険をなくすことはできません。

このことから、まつり実施日において暑さ指数が高く、熱中症リスクが著しく高いと予測される場合には、一部のまつり行事を中止し、若しくは見合わせを要請します。また、まつりに合わせて行われる行事においても、適切な対応を求めるとします (表 1 「令和 7 年度沼田まつり実行委員会熱中症対策行事実施基

準」)。また、実行委員会がまつりエリア内3か所に設置した暑さ指数計のまつり各日の午後1時から午後5時までの時間ごと（正時）の実測値を公表することとします。

3 おわりに

沼田まつりは実施エリアも広く、参加者、観覧者併せて延べ20万人を超える一大行事です。実行委員会が直接的に全員の状態に目を配ることはできません。熱中症予防のためには、まずは自ら行動を取る必要があります、併せて家族や周囲の方の見守りや声かけの共助も重要です。無理をせず、体調の悪い場合には休息をとるなど、それぞれの参加者が、自助共助を行ってください。

今後も、沼田まつり実行委員会では、熱中症をはじめとした危機に真摯に対応して参りますので、皆さまのご理解ご協力をお願いいたします。